

くまさぶろう

第二瑞光小学校 一年 洲崎 凱天

やなぎだせんせい、こんにちは。やなぎだせんせいは、

どろぼうに会ったことがありますか。ぼくは、まだありません。うちにどろぼうがきたらこまります。でも、くまさぶろうみたいなどろぼうだったら会ってみたいなあと思いました。

くまさぶろうは、はじめは、ものをうばうだけのどろぼうでした。人のものをぬすむのは、いけないことです。くまさぶろうは、いっぱいものをぬすんで、ぞうまでぬすんだので、家がぞうにこわされてしまいました。

わるいことをしたら、自分にもわるいことがおきます。ぼくは、けんどうの面つけのれんしゅうをさぼるので、いつも、けいこのときにくまっつけられなくてこまりま

す。まえの日に学校のじゅんびをわすれるので、朝、学校にいくまえにあわてます。なかなかはんせいできません。くまさぶろうもそうなのかな、しょうがないな、と思いました。

くまさぶろうは、家がなくなって、毎日、おなかペコだったでしょう。やなぎだせんせいは、おなかへったらどうしますか。ぼくは、おかあさんにおいしいごはんをつくってもらいます。くまさぶろうは、どうしたと思いますか。なんと、おなかがいっぱいの人のきもちをすいってしまったのです。ごちそうを食べていた人は、おいしいきもちも、おなかもへこんでしまいました。

この日から、くまさぶろうは、人の心をぬすむことができるどろぼうになったのです。ぼくは、くまさぶろうが、ますます、わるいどろぼうになってしまうのか、ドキドキしました。だって、おなかいっぱいうれしいき

もちをぬすむのは、ものをぬすむよりひどいことでしよう。

でも、ちがいました。くまさぶろうは、もっとわるいどろぼうにはなりませんでした。

ころんでないでいる女の子のいたいきもちや、いじめられている男の子のなさけないきもちをすいとしてあげたりするようになったのです。くまさぶろうが、はじめていいことをして、とてもうれしくなりました。

ぼくも、お母さんにしかられてかなしくなったり、プールのテストで合かくできなくてくやしかったりするところがあります。そんなとき、くまさぶろうがきてくれたらなあと思いました。

いつのまにか、くまさぶろうは、自分がつらくても、人がよろこぶのを見るのがうれしくなっていました。

はじめは、つらいきもちをくまさぶろうにぬすんでほ

しいと思いました。けれど、夏休みのスポーツクラブのがっしゆくで、せんせいが、「すきなこと、らくなことばかりしてはりっぱな人になれません。苦手なことやたいへんなことも、自分の力でやってみましょう。」と、いいました。

今は、かんがえがかわって、「ぼくが、くまさぶろうになろう。」と、思うようになりました。

くまさぶろうのように、人のきもちをぬすむことはできないけれど、人のきもちになって、いっしょにかなしんだり、よろこんだりすることならできると思います。

たとえば、けがをしているともだちに、「だいじょうぶ。いたいね。」といっしょにいたいきもちをわけたり、弟がうまれたともだちと、「かわいいね。」と、いっしょによろこんだりすることです。

ぼくだけじゃなく、みんながそうなれば、ぼくの小学

校やぼくの町は、もっとよくなるだろうと思います。

【柳田邦男さんからのメッセージ】

いろんなことを、きちんとできない自分と似ていると思っていたところぼうのくまさぶろうが、ついに人の心までぬすむようになったので、こわいと感じたんですね。しかし、くまさぶろうが、泣いている女の子の痛い気持ちや、いじめられている男の子のなさけない気持ちや、すいとしてあげるようになったところになると、うれしい気持ちに変わり、くまさぶろうを見直すようになったのですね。その自分の気持ちの変化がよく書けています。

そして、自分も、くまやぼうのようになりたいなと思うけれど、人の心をぬすむのでなく、けがをした友だちや、「だいたいぼうぼう、いたいね」と言っただけたり、弟が生まれた友だちや、「かむらね」や「しんや」や「いんこ」などであげたりす

るなど、相手の気持ちによりそってあげるといって、自分ならどこでもやり方まで考えを深くしたところや、とてもだいたいな点だし、とても感動した点です。

本を読んで、いいなと感じたり、いやだと感じたりしたとき、自分ならどうするかなど考えると、本の読み方がどんどん深くなります。そして、つらいときや悲しいときにも、自分を見つめる心を持つことができるようになるのです。

洲崎くんは、まだ1年生だけれど、自分を見つめる心が、はやくも育ちはじめているんだと感じました。

すばらしいお手紙を書いてくれて、ありがとう！